

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1970101315		
法人名	社会福祉法人千歳会		
事業所名	グループホーム青沼		
所在地	甲府市青沼2丁目23番1号		
自己評価作成日	平成26年11月13日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成27年2月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域密着事業所として徐々に地域に定着し、業務を運営するうえで次のような事柄に重点を置き推し進めている。
 ①推進会議には、地域包括、自治会役員、民生委員、近隣住民等が医院で構成され、その計らいで運動会や神社祭典に出かけ、交流している。②市街地にあるのでスーパーやドラッグストア等に出かけ、買い物を楽しんでいる。
 ③季節感を取り入れた行事を企画し、お花見や紅葉狩り出かけ大変好評である。
 ④時には、利用者の食べたいものを聞き、ラーメン屋や回転ずしなどの外食も楽しんでいる

事業所は、個人商店や大型店が点在する市街地にある。鉄筋2階建てで、1階2階にそれぞれ1ユニットづつが、ゆったりと配置されている。開設以来10年以上が経過し、その間の地域密着型事業所としての努力が実り、地域に定着している。運営推進会議でも近隣住民がメンバーに加わり、事業所への理解が深まっている。職員は家庭的な雰囲気の中、人生の先輩として利用者に接するよう努めており、食事も利用者といっしょに食べながら昔話を聞いたり、様々なことを教えてもらうなど楽しい時間となるよう配慮している。利用者は、理念の‘人間愛に基づいた介護’を目指す全職員の支援を受けながら、安心して過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

事業所名 グループホーム青沼

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム要素所に理念及び基本方針を掲げ、職員個々にも手渡し、それを日々念頭に業務に当たることを基本としている。又、時には会議等で理念及び方針を確認し、全職員が「人間愛に満ちて」最良の介護を行うように取り組んでいる。	ホーム要素所に理念及び基本方針を掲げ、職員個々にも手渡し、それを日々念頭に業務に当たることを基本としている。又、時には会議等で理念及び方針を確認し、全職員が「人間愛に満ちて」最良の介護を行うように取り組んでいる。	独自の理念・基本方針を玄関、フロアー、スタッフルームに掲示している。管理者・職員は、職員全体会議や毎日の申し送りの際に、理念を共有して意識づけしている。職員一人ひとりが理念を理解し家庭の延長として、日々のケアに反映している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地区自治会災害時の名簿を登録し、又大震災を機に避難訓練においても近隣住民の協力で避難誘導の協力を得ている。自治会行事の一環である運動会・神社の祭典・文化祭等の参加あるいは見学し交流している。	地区自治会災害時の名簿を登録し、又大震災を機に避難訓練においても近隣住民の協力で避難誘導の協力を得ている。自治会行事の一環である運動会・神社の祭典・文化祭等の参加あるいは見学し交流している。	自治会に加入し地域との協力関係は築かれている。事業所の災害訓練には近隣住民の協力が得られている。地域の運動会や、お祭り、小学校の運動会に利用者が参加したり、事業所の納涼祭に家族と地域のひとが来て交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区GH、多機能事業所等が交流する東包括の交流・研修会等に定期的に参加し実践内容報告や事例発表を通して情報交換している。又地元高校からの研修生の受け入れ、新規に従業所を開設する幹部職員の研修の場を提供している。	地区GH、多機能事業所等が交流する東包括の交流・研修会等に定期的に参加し実践内容報告や事例発表を通して情報交換している。又地元高校からの研修生の受け入れ、新規に従業所を開設する幹部職員の研修の場を提供している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年間行事、事業計画、報告の他、利用者の実態等報告し、委員から意見や要望を受け話し合い運営に反映している。又当該評価で明らかになった課題についても会議にて意見を聞く等して改善を図っている。	年間行事、事業計画、報告の他、利用者の実態等報告し、委員から意見や要望を受け話し合い運営に反映している。又当該評価で明らかになった課題についても会議にて意見を聞く等して改善を図っている。	運営推進会議は2か月に1回開催している。事業所から現況の報告や行事、事業の説明を行い、メンバーからは感染症の取り組み、外出、行事、閉じこもりのないケア、定期的なボランティア参加など、積極的な意見が運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生保受給利用者が多く(現在6名)介護報酬請求、医療面受診等日常的に関わりを持っている。又市介護サービス協議会の会員で会が開催する事業や研修会、グループワークに参加し対話の機会は多々ある。そこで得たものを業務に活かしている。	生保受給利用者が多く(現在7名)介護報酬請求、医療面受診等日常的に関わりを持っている。又市介護サービス協議会の会員で会が開催する事業や研修会、グループワークに参加し対話の機会は多々ある。そこで得たものを業務に活かしている。	社協や地域包括主催の研修会や書類申請などの機会を通じ、事業所の現状や課題を伝えるよう努めている。市担当窓口には、運営推進会議の議事録を届け、事業所の取り組みを知ってもらい、協力関係が築けるよう図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないことを基本原則として介護業務に当たっている。拘束排除に関するマニュアルも整備しており常時習得可能な体制になっている。	身体拘束をしないことを基本原則として介護業務に当たっている。拘束排除に関するマニュアルも整備しており常時習得可能な体制になっている。	職員は自分が利用者の立場であったらと考え、スピーチロックも拘束とならないよう、職員同士が注意し合っている。外に出たがる利用者には職員が付き添って散歩したりドライブをするなどして利用者の気持ちに寄り添うケアをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	業務マニュアル及び全体会議の中で虐待に繋がる言葉遣いについて話し合い研鑽し防止に取り組んでいる。何気なく発した言葉や態度が受け止められることがないように利用者に接している。	業務マニュアル及び全体会議の中で虐待に繋がる言葉遣いについて話し合い研鑽し防止に取り組んでいる。何気なく発した言葉や態度が受け止められることがないように利用者に接している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度に関しても研修も未受講であり、制度そのものを理解していない。従って、必要性が生じた場合を考え研修を要するものと考えます。	成年後見制度に関しても研修も未受講であり、制度そのものを理解していない。従って、必要性が生じた場合を考え研修を要するものと考えます。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書に基づいて詳細に説明し要望を聞いて可能な限り対応することを約束し契約を締結している。又退所に当たっても状況変化により契約解除に及ぶ場合は、対応方針を相談し方向けをしている。	契約書、重要事項説明書に基づいて詳細に説明し要望を聞いて可能な限り対応することを約束し契約を締結している。又退所に当たっても状況変化により契約解除に及ぶ場合は、対応方針を相談し方向けをしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談事、意見、要望、不満等直接管理者やケアマネ、介護職に、又は運営会議の場で言うように心がけている。家族には来訪時の他電話や定期便りで報告している。出された要望は検討し対応している。	相談事、意見、要望、不満等直接管理者やケアマネ、介護職に、又は運営会議の場で言うように心がけている。家族には来訪時の他電話や定期便りで報告している。出された要望は検討し対応している。	家族に金銭報告・お便りに添えて本人の様子を書き郵送し、面会時には本人の様子を細かく話し、意見要望を言える雰囲気作りに努めている。利用者の希望は、表情やジェスチャーなどで日常の中から聞いて、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的全体会や必要に応じた主任やケアマネを中心の検討会において業務運営に関して意見や提案を聞く機会を設けサービス全版の質の向上に努めている。花菱荘長は定期的に来訪し利用者や職員と対話して運営に反映している。	定期的全体会や必要に応じた主任やケアマネを中心の検討会において業務運営に関して意見や提案を聞く機会を設けサービス全版の質の向上に努めている。花菱荘長は定期的に来訪し利用者や職員と対話して運営に反映している。	職員の利用者のケアに関する意見・提案は、管理者・ケアマネジャー・主任に日常的に出され、その都度、話し合いそれを記録し全職員が共有している。また、備品の要望は行事・衛生など各委員会が組織されており、その中から必要時に要望し対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	花菱荘荘長は月一程度で現場で利用者や職員と語り合うして利用者の生活状況を把握し、職員と意思疎通を図り向上心が持てるように働きかけている。又資質向上のため介護福祉士等の資格取得のための受験機会を確保している。	花菱荘荘長は月一程度で現場で利用者や職員と語り合うして利用者の生活状況を把握し、職員と意思疎通を図り向上心が持てるように働きかけている。又資質向上のため介護福祉士等の資格取得のための受験機会を確保している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外や法人グループで開催される研修会・勉強会に全職員が受講できるようにしている。参加した職員が必要に応じて資料を閲覧できるようにしている。新人職員には、1~2ヶ月間ケアの技術面の他、関わりを丁寧に指導している。	事業所外や法人グループで開催される研修会・勉強会に全職員が受講できるようにしている。参加した職員が必要に応じて資料を閲覧できるようにしている。新人職員には、1~3ヶ月間ケアの技術面の他、関わりを丁寧に指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県GH協会、介護労働安定センター、市介護授業者評議会主催の研修会・GW・事例検討会・発表会を通じて地域内外多くに事業所と交流し、情報交換したことをサービスの質の向上に活かしている。	県GH協会、介護労働安定センター、市介護授業者評議会主催の研修会・GW・事例検討会・発表会を通じて地域内外多くに事業所と交流し、情報交換したことをサービスの質の向上に活かしている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	順番が来た場合、事前に本人と会って心身の状況や本人の思いをに聞き合い、利用が決まったら介護士が本院に受け入れるような関係づくりに努めている。(認知症の度合いによって、家族等に聞くことがある。)	順番が来た場合、事前に本人と会って心身の状況や本人の思いをに聞き合い、利用が決まったら介護士が本院に受け入れるような関係づくりに努めている。(認知症の度合いによって、家族等に聞くことがある。)		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前若しくは入所後キーパーソンに利用者の心身の状態やこれまでの家族の苦労や今日までのサービスの利用状況をできるだけ詳しく聞き、それをサービス提供に活かしていくことを前提に信頼関係を築いていく。	事前若しくは入所後キーパーソンに利用者の心身の状態やこれまでの家族の苦労や今日までのサービスの利用状況をできるだけ詳しく聞き、それをサービス提供に活かしていくことを前提に信頼関係を築いていく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現状を確認して、空気がない場合、可能な限り柔軟な対応して空気ができるまで他のサービスを利用できるようにアドバイスしている。本人と家族にとって問題点を見出しその解決策としてのサービスを提案している。	現状を確認して、空気がない場合、可能な限り柔軟な対応して空気ができるまで他のサービスを利用できるようにアドバイスしている。本人と家族にとって問題点を見出しその解決策としてのサービスを提案している。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	年長者であるが故に普段から利用者に教えてもう場面が多い。そうしたことからその場面づくりを工夫し、協働しながら穏やかに、そして和やかに生活できるような関係を築いている。	年長者であるが故に普段から利用者に教えてもう場面が多い。そうしたことからその場面づくりを工夫し、協働しながら穏やかに、そして和やかに生活できるような関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の状況を具体的に伝え、そこで情報交換をして絆を深め信頼関係を醸成している。そうした中で利用者を支えていくための家族との関係がさらに深まっている。	利用者の状況を具体的に伝え、そこで情報交換をして絆を深め信頼関係を醸成している。そうした中で利用者を支えていくための家族との関係がさらに深まっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの人生経験を断ち切らないように心がけ友人や、知人等は訪問するなどして継続的に交流している。又馴染みの美容院やお店に行ったり、命日やお彼岸にお墓参りするなどで一人一人の生活習慣を尊重している。	これまでの人生経験を断ち切らないように心がけ友人や、知人等は訪問するなどして継続的に交流している。又馴染みの美容院やお店に行ったり、命日やお彼岸にお墓参りするなどで一人一人の生活習慣を尊重している。	利用者の生活背景を把握して支援につなげている。友人・知人が訪れてくれた時は本人の居室に通し、お茶を出しつづいでもらっている。馴染みの美容院への送迎を支援したり、お墓参りへの家族の協力を依頼するなど支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者と関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が団欒できる時間や気の合う者同士で過ごせる場面づくりを介護士が中に入って支援している。食事やおやつも一緒に食べ、それぞれの量や好き嫌いを把握している。	利用者同士が団欒できる時間や気の合う者同士で過ごせる場面づくりを介護士が中に入って支援している。食事やおやつも一緒に食べ、それぞれの量や好き嫌いを把握している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人グループの老健や特養に移り生活している利用者には、折に触れ励ましの言葉を掛けたり、現状を聞いている。又、他施設に移られた利用者の情報を得て関係を断ち切らないように努めている。	法人グループの老健や特養に移り生活している利用者には、折に触れ励ましの言葉を掛けたり、現状を聞いている。又、他施設に移られた利用者の情報を得て関係を断ち切らないように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日中から夜間チームワークで支援し、表情や動作、話し方から要望を聞いたりして真意を確認するようにしている。意志等を推しはかることが困難な場合は家族と相談しながら対応している。	日中から夜間チームワークで支援し、表情や動作、話し方から要望を聞いたりして真意を確認するようにしている。意志等を推しはかることが困難な場合は家族と相談しながら対応している。	職員は、日常の暮らしの中で本人にできるだけ話しかけて希望・意向の把握に努めている。面会時に家族や友人から得た趣味や嗜好、主婦歴などの情報や暮らしの中での職員の気づきを記録し支援に反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、親族若しくは担当のケアマネから生活歴を聞いて、個々の状況を把握して共同生活に慣れ親しむように支援している。	本人、家族、親族若しくは担当のケアマネから生活歴を聞いて、個々の状況を把握して共同生活に慣れ親しむように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の心理面、生活のリズムを念頭にして表情、動作などをくみ取りその日、その日の生活リズムに取り入れている。できないことよりできることに着目し力量が発揮され、満足感として捉えるように支援している。	個々の心理面、生活のリズムを念頭にして表情、動作などをくみ取りその日、その日の生活リズムに取り入れている。できないことよりできることに着目し力量が発揮され、満足感として捉えるように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	プラン作成、見直しの時に、本人や家族から要望を聞きモニタリング。ケアカンファレンスで意見交換して課題を評価し、次のプランにいかしている。時には介護保険更新時に調査員の意見も参考にしてスタッフ間では話し合いプランに反映している。	プラン作成、見直しの時に、本人や家族から要望を聞きモニタリング。ケアカンファレンスで意見交換して課題を評価し、次のプランにいかしている。時には介護保険更新時に調査員の意見も参考にしてスタッフ間では話し合いプランに反映している。	6ヶ月毎に介護計画を見直し、家族・本人の要望を聞き、管理者・ケアマネジャー、主任によるモニタリング、カンファレンスを行っている。職員の意見、気づきは、日常的に話し合っており、利用者を、どのように支えていくか全職員が共通した認識を持ち介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の記録を重視し食事摂取から排泄状況、本人の言葉、エピソード等も記録している。それを全員が確認し、申し送りで共用している。それらを前提に介護計画を見直している。	個々の記録を重視し食事摂取から排泄状況、本人の言葉、エピソード等も記録している。それを全員が確認し、申し送りで共用している。それらを前提に介護計画を見直している。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サービスの一環として病院への通院受診(緊急も含む)はホームで対応している。他にもおむつや日用品、衣料品の購入に至るまで柔軟に対応しており本人はもちろん家族にも好評である。	サービスの一環として病院への通院受診(緊急も含む)はホームで対応している。他にもおむつや日用品、衣料品の購入に至るまで柔軟に対応しており本人はもちろん家族にも好評である。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元自治会役員・市笑顔ふれあいサポート事業の一環でボランティアの訪問を毎月受け入れている。納涼祭にも参加して頂くなど交流を深めている。地域包括とも連携している。相談している。	地元自治会役員・市笑顔ふれあいサポート事業の一環でボランティアの訪問を毎月受け入れている。納涼祭にも参加して頂くなど交流を深めている。地域包括とも連携している。相談している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用前からのかかりつけ医で医療が継続できるように、又新たな病気についても家族と相談しながら複数の医療機関と関係を密にして受診している。	利用前からのかかりつけ医で医療が継続できるように、又新たな病気についても家族と相談しながら複数の医療機関と関係を密にして受診している。	本人・家族の希望を大切に、かかりつけ医を決めてもらっているが、現在は利用者全員が事業所の訪問診療の医師に2週に1回、受診している。歯科も1週に1度の訪問診療がある。家族対応の受診の場合でも文書化情報として共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週火曜日に訪問看護により利用者の健康管理や状態変化に応じ適時対応している。又、24時間体制で連絡ができる状態なので緊急時に指示を仰ぐして対応している。	毎週火曜日に訪問看護により利用者の健康管理や状態変化に応じ適時対応している。又、25時間体制で連絡ができる状態なので緊急時に指示を仰ぐして対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはADL状況や過去の病気、現状を医療機関に提供し、適宜面会に行き回復状況や治療期間の予定を担当医に、看護師、医療相談から聞き対応している。又家族とも情報交換しながら退院支援に結びつけている。	入院時にはADL状況や過去の病気、現状を医療機関に提供し、適宜面会に行き回復状況や治療期間の予定を担当医に、看護師、医療相談から聞き対応している。又家族とも情報交換しながら退院支援に結びつけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療行為(経管栄養等)が必要な状態になった場合には、家族及び主治医と話し合い退所方向付けしている。平成26年10月より、当施設での看取りケアを実施しているため、家族の意向も確認しながら行っていきたくと考えています。	医療行為(経管栄養等)が必要な状態になった場合には、家族及び主治医と話し合い退所方向付けしている。平成26年11月より、当施設での看取りケアを実施しているため、家族の意向も確認しながら行っていきたくと考えています。	昨年の10月から、3件の看取りを経験した。早い段階での話し合いや説明の必要性を強く感じ、看取りの指針の説明を全家族に行なった。本人の状況の変化の度に話し合い、家族の考え方を確認して医療関係者の協力・連携体制を整え支援した。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防職員による救命救急法実技指導を受けた経緯があるので初期の対応方法は習得している。救急車が到着するまへの応急処置や情報の共有も含めて準備すべきことについては研修している。	消防職員による救命救急法実技指導を受けた経緯があるので初期の対応方法は習得している。救急車が到着するまへの応急処置や情報の共有も含めて準備すべきことについては研修している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	大震災を機に新たに防災マニュアルを作成し避難訓練に際し時として近隣住民の協力を得て実施している。訓練の都度、避難経路、避難場所の確認、消火器の使い方、怪我人の応急処置胃等防火管理者の指示のもと周知徹底している。	大震災を機に新たに防災マニュアルを作成し避難訓練に際し時として近隣住民の協力を得て実施している。訓練の都度、避難経路、避難場所の確認、消火器の使い方、怪我人の応急処置胃等防火管理者の指示のもと周知徹底している。	年2回、昼間に地震により火災が発生したことを想定し、地震・火災の避難訓練を合わせて行っている。近隣住民の参加・協力を得て避難経路・避難場所の確認を職員と一緒にしている。マニュアル、緊急連絡網は整備され消火器、火災通報装置の取り扱いなど訓練している。	昼夜を問わず、いつ災害が起こっても利用者・職員全体が慌てず速やかに避難できる方法を身に付けるよう繰り返し訓練を重ねることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	馴れ合いの中でも本人の尊厳を無視して言葉かけや態度、ケア等に最大限の気配りを怠らず対応している。採用時「個人情報保護に関する誓約書」を提出し在職中は勿論、退所後も知り得た情報を漏らすことのないように管理し徹底している。	馴れ合いの中でも本人の尊厳を無視して言葉かけや態度、ケア等に最大限の気配りを怠らず対応している。採用時「個人情報保護に関する誓約書」を提出し在職中は勿論、退所後も知り得た情報を漏らすことのないように管理し徹底している。	利用者一人ひとりに、人生の大先輩であると言う姿勢で接し、声かけや支援の際もプライバシーや誇りを傷つけないよう配慮している。個人情報に関わる書類は事務室に保管し、ケース記録の記入も目の前で書いたりしないよう気配りしている。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の状態に合わせて声掛け、意思表示が困難方には表情を読み取ったりメモなどを使い、些細なことでも本人が決める場面を作っている。(飲みたいもの、食べたいもの、やりたいこと等)	個々の状態に合わせて声掛け、意思表示が困難方には表情を読み取ったりメモなどを使い、些細なことでも本人が決める場面を作っている。(飲みたいもの、食べたいもの、やりたいこと等)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な日課はあるが、時間を区切った過ごし方はしていない。外出(買い物や散歩)についても体調や状態を見て、その日、その時の気持ちを尊重した柔軟な対応をしている。	基本的な日課はあるが、時間を区切った過ごし方はしていない。外出(買い物や散歩)についても体調や状態を見て、その日、その時の気持ちを尊重した柔軟な対応をしている。		
39		○身だしなみやおしやれの支援 その人らしい身だしなみやおしやれができるように支援している	普段の私服や外出の服装は自ら選んで着ている。介護士は見守り、支援が必要な場合は手伝う。理容は二ヶ月に一回程度行き、本人が希望する髪型にカットしている。	普段の私服や外出の服装は自ら選んで着ている。介護士は見守り、支援が必要な場合は手伝う。理容は二ヶ月に一回程度行き、本人が希望する髪型にカットしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や盛り付け、配膳、片付け、食器洗いも一緒にやっている。食事をするときには、介護士もテーブルを囲んで和やかな雰囲気ですべている。年に数回外食する機会も取り入れている。	調理や盛り付け、配膳、片付け、食器洗いも一緒にやっている。食事をするときには、介護士もテーブルを囲んで和やかな雰囲気ですべている。年に数回外食する機会も取り入れている。	食材は業者から届き、調理の下ごしらえ、盛り付け、配膳、後片付けなど利用者と職員が共に行なっている。職員と一緒に同じものを食べ楽しい会話がされている。おやつ作りは材料の買出しから利用者が関わり、外食を楽しむ機会もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿や肥満値が高い方には出来るだけその人に合った栄養バランスを考慮しながら対応している。毎日利用者の食事摂取量や水分量を記録や申し送り共有している。	糖尿や肥満値が高い方には出来るだけその人に合った栄養バランスを考慮しながら対応している。毎日利用者の食事摂取量や水分量を記録や申し送り共有している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に口腔清潔保持のため声掛けて個々の能力に応じて介護士が見守ったり、介助している。就寝前には、義歯を外して洗浄液に浸している。	食後に口腔清潔保持のため声掛けて個々の能力に応じて介護士が見守ったり、介助している。就寝前には、義歯を外して洗浄液に浸している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄自立以外の利用者個々の排泄パターンを把握し声掛けて誘導を行っている。その中でリハビリやパット外すことに力を入れている。	排泄自立以外の利用者個々の排泄パターンを把握し声掛けて誘導を行っている。その中でリハビリやパット外すことに力を入れている。	利用者の半数は自立している。支援が必要な利用者には、排泄パターンを把握しトイレ誘導し、夜間であっても声かけをしてトイレでの排泄を促している。トイレの備品やパットの処理の方法など利用者合わせた工夫をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の利用者のは主治医の指示で内服の量や頻度を対応している。予防対策として水分補給や繊維質の多い食材や乳製品を取り入れている。また体操や散歩、食事前の口腔体操で体を動かして自然排便できるよう支援している。	便秘気味の利用者のは主治医の指示で内服の量や頻度を対応している。予防対策として水分補給や繊維質の多い食材や乳製品を取り入れている。また体操や散歩、食事前の口腔体操で体を動かして自然排便できるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1階、2階交互に週3回朝から一人で入浴している。着脱や入浴の介助は個々の状態を把握して対応している。入浴を拒む人には、言葉かけの工夫やチームプレーによって一人一人に合わせた入浴支援をしている。	1階、2階交互に週4回朝から一人で入浴している。着脱や入浴の介助は個々の状態を把握して対応している。入浴を拒む人には、言葉かけの工夫やチームプレーによって一人一人に合わせた入浴支援をしている。	利用者は週3回、入浴している。給湯設備の関係で2ユニットが同時に入浴できないため交互に入浴日を組んでいる。浴槽は広く、仲良しの利用者が二人いっしょに入浴を楽しむこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中個々の生活リズムを把握した中でその人に合った活動を促し夜間心地よく安眠できるように支援している。特に夕食後からテレビを観たり団楽したり思い思いに過ごして安心感を持たせゆっくりお休みできるように対応している。	日中個々の生活リズムを把握した中でその人に合った活動を促し夜間心地よく安眠できるように支援している。特に夕食後からテレビを観たり団楽したり思い思いに過ごして安心感を持たせゆっくりお休みできるように対応している。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	その都度処方内容コピーを個々のファイルに整理し介護士が内容を把握して内服している。状況により手渡しして飲むまで確認の他、口に入れて服用まで確かめている。処方箋の内容、容量等が変化があれば主治医と連携し対応している。	その都度処方内容コピーを個々のファイルに整理し介護士が内容を把握して内服している。状況により手渡しして飲むまで確認の他、口に入れて服用まで確かめている。処方箋の内容、容量等が変化があれば主治医と連携し対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	長い人生経験の中で一人ひとりの得意とすることを把握して食事準備、掃除等の他、季節により家庭菜園づくり。又外出支援、地域の行事参加、催し物の見学などストレス解消に努めている。	長い人生経験の中で一人ひとりの得意とすることを把握して食事準備、掃除等の他、季節により家庭菜園づくり。又外出支援、地域の行事参加、催し物の見学などストレス解消に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の要望、話し合いで屋外に出かけることを常に行っている。季節を肌で感じてもらい、心身の活性に繋げるように散歩、ドライブ、買い物、或は、公園等に出掛けている。	利用者の要望、話し合いで屋外に出かけることを常に行っている。季節を肌で感じてもらい、心身の活性に繋げるように散歩、ドライブ、買い物、或は、公園等に出掛けている。	日常的に、近くの神社への散歩や、敷地内の畑や庭先で外気浴を行なっている。花の時期には向かいのバラ園を見ながらお茶を楽しむこともあり、市民会館や公園に行くなど積極的に外出している。初詣、花見やイチゴ狩りなど季節を感じられる外出も行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の中にはお金を所持しており、時折スーパーやドラッグストアにて日用品や食べ物を購入し、買い物をしたという満足感を味わっている。	利用者の中にはお金を所持しており、時折スーパーやドラッグストアにて日用品や食べ物を購入し、買い物をしたという満足感を味わっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はある程度自由に掛けられるようになっている。かかってきた場合もつないでいる。又、手紙や年賀状で友人とのやり取りもしている。	電話はある程度自由に掛けられるようになっている。かかってきた場合もつないでいる。又、手紙や年賀状で友人とのやり取りもしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	二階建てで周囲に高い建物もなく一日中陽が当たり環境も良い。内部もホールや廊下にゆとりのある広さで、浴室、トイレも分かりやすくなっている。ホールには利用者と一緒に作った貼り絵や行事で撮影した写真が飾ってある。	二階建てで周囲に高い建物もなく一日中陽が当たり環境も良い。内部もホールや廊下にゆとりのある広さで、浴室、トイレも分かりやすくなっている。ホールには利用者と一緒に作った貼り絵や行事で撮影した写真が飾ってある。	廊下、ホール、浴室、トイレなどゆったりとした空間が確保されている。ホールに設えてある和室にはコタツがたてられ、利用者が昼寝やテレビを観たり、おしゃべりを楽しんだりしている。共同制作の貼り絵、行事の写真、利用者が手入れの鉢植えなどが季節感や生活感を醸し出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やホール等の空間を活用し、椅子やテーブル、ソファを置き利用者同士や家族共に気軽に話ができるように工夫している。時々、一人でのんびりと寛いでいる方もいる。	廊下やホール等の空間を活用し、椅子やテーブル、ソファを置き利用者同士や家族共に気軽に話ができるように工夫している。時々、一人でのんびりと寛いでいる方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭で使い慣れた家具やテレビなどの持ち込みも自由で家族や介護士と相談しながら配置して居心地よく工夫している。	家庭で使い慣れた家具やテレビなどの持ち込みも自由で家族や介護士と相談しながら配置して居心地よく工夫している。	ベッド、タンス、洗面台が備えてあり、思い思いの収納家具、家族の写真、位牌、遺影など安心して過ごせる部屋を作っている。各部屋には本人の作品である貼り絵のカレンダーを飾り、満足感や達成感を感じてもらえるよう工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	内部はバリアフリーでホール、廊下、階段に手すりがありエレベーターも設置して安全に配慮している。厨房のシンク、調理台も使いやすくなっている。又、各居室の洗面所もセンサーで感知し水が出るようになっている。	内部はバリアフリーでホール、廊下、階段に手すりがありエレベーターも設置して安全に配慮している。厨房のシンク、調理台も使いやすくなっている。又、各居室の洗面所もセンサーで感知し水が出るようになっている。		